

今後の腎疾患対策の方向性(案)について

第1回腎疾患対策検討会の腎疾患対策におけるこれまでの取組と課題に関する議論を踏まえて、各分野の方向性案について検討する。

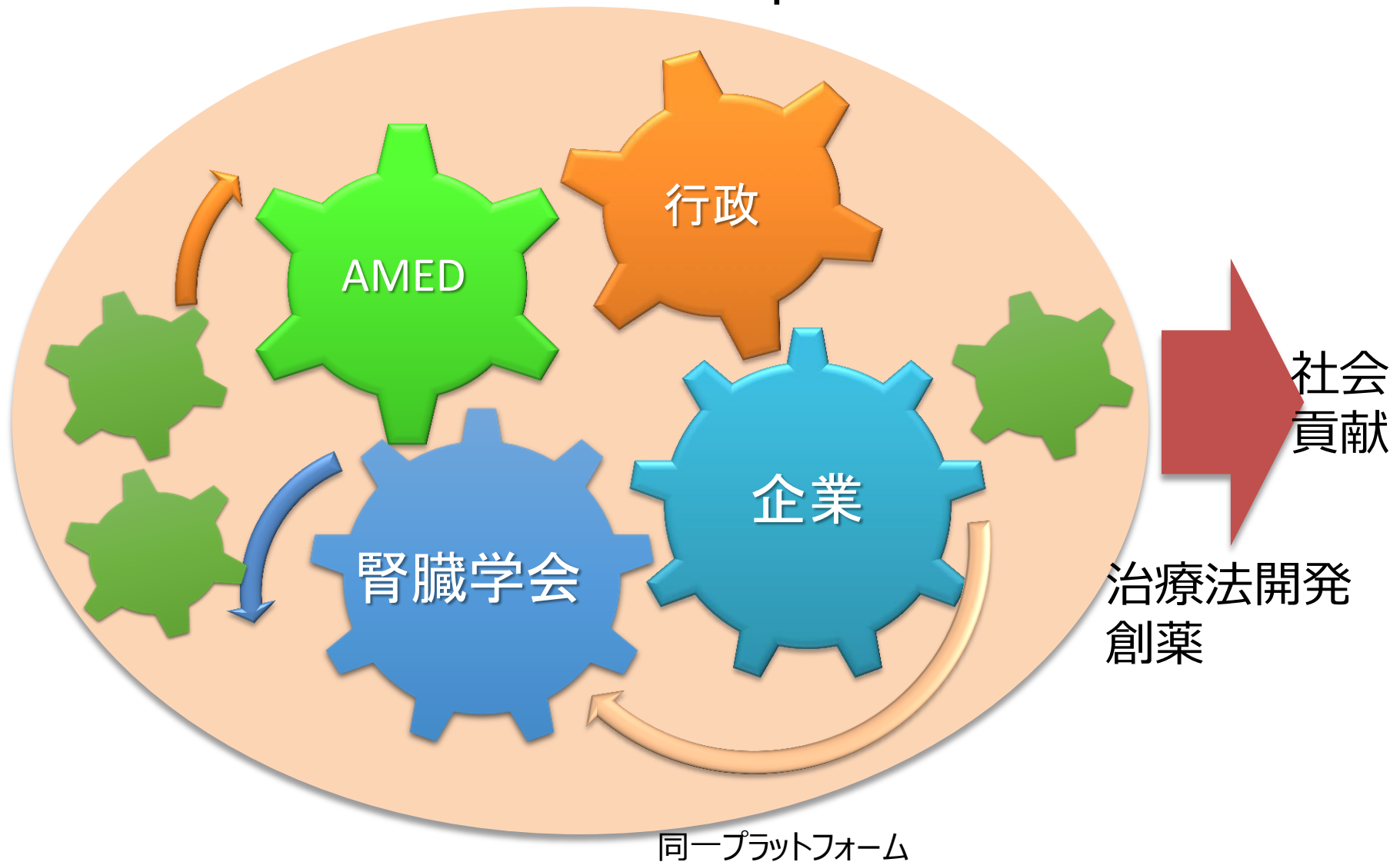
- 研究開発の推進

第2回腎疾患対策検討会
資料2及び参考資料1を一部修正

研究開発の推進の方向性(案)

- ・国が定める「医療分野研究開発推進計画」等の中長期的な目標を踏まえた研究を、関連学会、行政、企業等が密接に連携したオールジャパン体制で推進すべきではないか。
- ・本検討会で定める目標等の達成に資する研究を推進すべきではないか。
- ・国と関連学会等が連携して、施策の提言や推進、施策の進捗管理等を行う研究も重要ではないか。

腎臓病分野におけるAll Japan体制の構築



「今後のCKD対策のあり方に関する研究班（平成28年度）」

「慢性腎臓病CKDの診療体制構築と普及・啓発による医療の向上（平成29年度）」

研究代表：柏原 直樹

【現状】

今後の腎疾患対策のあり方について(提言)（平成20年3月 腎疾患対策検討会）に基づいた腎対策をさらに推進する必要がある。

【課題】

- ・行政との連携をさらに強化する必要がある。
- ・日本糖尿病学会等の関連学会とのさらなる連携が必要。
- ・生活習慣病対策、難病対策が連携して、CKD対策や研究を推進する体制が必要。

【研究のハイライト】

1. CKD診療連携の充実、普及

各地域の状況に応じて、最適なCKD連携の方法論を開発し、実践する。
診療連携の重要なツールとなる、「**専門医等への紹介基準**」の普及を進める。

2. 研究のとりまとめ

これまでの研究や対策等に関する**成果を見える化し、今後の対策に活用する。**
特にデータベース構築研究等においては、**学会主導でオールジャパン体制を構築。**

3. 腎疾患対策検討会における検討のための情報収集

今後の糖尿病対策と医療提供体制の整備のための研究

主任研究者: 門脇 孝(東京大学)

目的

現在まで様々な糖尿病対策事業や疫学研究などが行われてきたが、現状、俯瞰できる形で状況が整理されていない。そこで本研究では、今までの糖尿病対策事業等を整理し、さらにガイドライン等の網羅的検討や比較を行い、関連学会の代表者が集う場で解決策を策定する。また、NDB/DPCデータベースを用いて日本全体における糖尿病及び合併症の実態把握を行い、特に糖尿病性腎症や糖尿病網膜症の重症化予防における課題を抽出し、解決策を検討する。

研究概要

1. ガイドラインの比較検討

各学会の糖尿病関連診療ガイドラインの相互対照による疾患概念、診断、治療法の整合性の検証などを行う。
各ガイドラインの次期改定や、糖尿病診療に関わる一般臨床医の診療向上に貢献する。



2. 既存の糖尿病研究・対策事業のまとめ

既存の糖尿病対策事業や学会主導の対策についての成果を取りまとめる。
今後進むべき糖尿病対策の方向性の設定に貢献する。



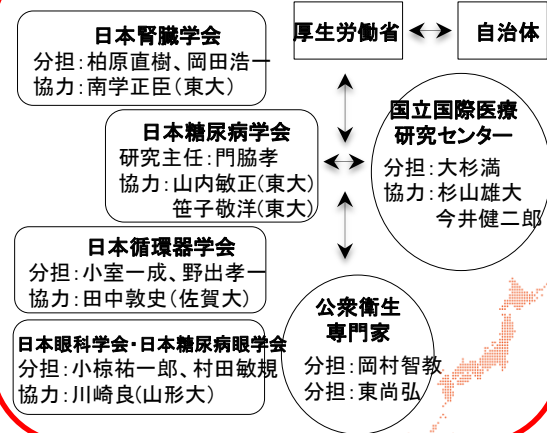
3. 糖尿病実態の把握 (NDB特別抽出データの解析)

日本全国規模の糖尿病有病者数、合併症等の実態調査を行う。
腎症・網膜症の重症化予防の課題抽出と解決策に貢献する。

4. 医療の質指標の抽出・医療提供体制に関する提言

各地域の医療の質・医療提供体制の現状について取りまとめを行う。
地域の医療提供体制の質向上や指標設定に貢献する。

【研究体制図】



5. 療養士制度等の把握と提言

各療法指導士制度を整理する。
医療供給体制への提言と一貫する形で療養士制度のあり方に貢献する。

研究開発の推進の方向性(案)を踏まえた研究例 (南学構成員提出資料より改変)

- ①関連学会との連携強化によるデータベース間の連携構築
- ②研究及び診療へのICTやビッグデータの活用
- ③国際共同試験を含めた臨床試験の基盤整備
- ④病態解明に基づく効果的な新規治療薬の開発
- ⑤再生・オミックス(ゲノム等)研究の推進
- ⑥腎臓病の基礎研究力や国際競争力の基盤強化

ICTを活用したDiabetic Kidney Diseaseの成因 分類と糖尿病腎症重症化抑制法の構築

研究代表: 柏原 直樹

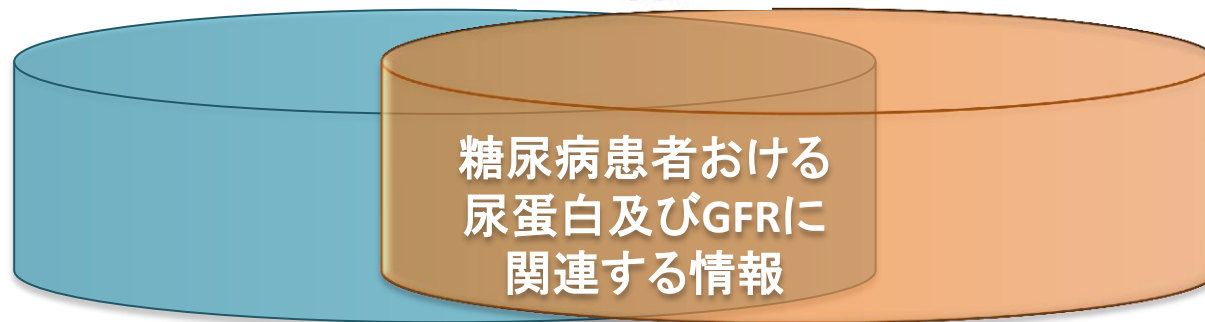
平成29～31年度 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業/腎疾患実用化研究事業 合同公募

J-DREAMS

(日本糖尿病学会主導
全国糖尿病データベース事業)

J-CKD-DB

(日本腎臓学会主導
包括的CKD臨床効果情報データ)



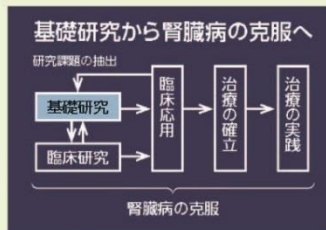
日本腎臓学会における国際化の取組み



腎臓病の克服基礎研究の推進



世界をリードする腎臓研究の遂行
次世代研究者の育成
基礎研究を通じた社会貢献



1. 基礎研究者確保のための活動

- (1) セミナーの実施，学術総会でのセッション充実
- (2) 研究者のプロフィール紹介の実施（学会プログラム，HP）
- (3) 研究助成金制度の拡充
- (4) 人材活用の促進
- (5) 海外留学の啓発と援助の実施
- (6) 海外留学中日本人研究者のための求職情報サイトの開設

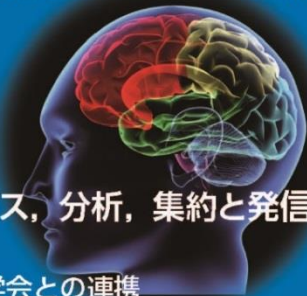


2. 基礎研究者のモチベーションの向上の活動のための活動

- (1) 研究業績に対する表彰制度の増設
- (2) MD 研究者のキャリアパスの提示
- (3) PhD 研究者のキャリアパスの紹介・提示

研究リソース，分析，集約と発信・周知

- (1) 基礎系学会との連携
- (2) 国内・外の共同研究のコーディネート
- (3) 研究室の共用可能リソースやデータの有効利用促進



3. 学会主導の研究プロジェクトの創成

- (1) 国・行政・他学会との連携
- (2) 学会主導研究テーマの選定
- (3) 実用化に向けたサポート
- (4) 研究成果の公表の場の提供



4. わが国における基礎研究課題

総透析患者数： 約 32 万人
新規透析導入患者数： 約 4 万人／年

◆ 透析導入予防に向けた新規治療法の開発

生活習慣病
高齡化

遺伝素因
特発性（原因不明）

糖尿病性腎臓病
腎硬化症

原発性糸球体腎炎
多発性嚢胞腎
その他

急性腎障害 (AKI)

薬剤 手術 感染症

◆ 透析に代わる 新規腎臓病治療の開発

◆ 腎臓再生研究の推進

